

各関係機関 御中

石川県農林総合研究センター所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

令和3年度病虫害発生予報第8号を下記のとおり送付します。

連絡先	石川県農林総合研究センター 農業試験場 総合研究部 病虫害防除室 電話 076-257-6972 (直通) FAX 076-257-9140 E-mail kisk0301@pref.ishikawa.lg.jp
-----	--

病虫害発生予報第8号

(予報期間：3月下旬～4月下旬)

予報内容

水 稲

ばか苗病の発生は、**多**と予想される。種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

苗いもちの発生は、**やや多**と予想される。種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

麦 類

オオムギ赤かび病の発生は、**平年並**と予想される。出穂期の3～5日後およびその7～10日後の2回防除する。麦の生育状況に注意し、防除が遅れないよう留意する。

果 樹

かき炭疽病の発生は、**多**と予想される。罹病枝は発生源となるので直ちに切り、圃場から除去する。休眠期の防除を徹底する。

ハダニ類の発生は、**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

野 菜・花 き

施設野菜のハダニ類・アブラムシ類の発生は、**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

※ 防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。 また、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。
--

気象予報

1 か月予報（令和4年3月3日付け 新潟地方気象台）

予報期間：3月5日～4月4日

[確率予報]

気 温	低い	20%	、	平年並	30%	、	高い	50%
降 水 量	少ない	30%	、	平年並	40%	、	多い	30%
日照時間	少ない	30%	、	平年並	40%	、	多い	30%

[概要]

向こう1か月は、暖かい空気に覆われやすいため、気温は高い見込みです。

- ・ 3月5日（土）～3月11日（金）
低気圧と高気圧が交互に通過し、平年と同様に天気は数日の周期で変わらうでしょう。
- ・ 3月12日（土）～3月18日（金）
低気圧と高気圧が交互に通過し、平年と同様に天気は数日の周期で変わらうでしょう。
- ・ 3月19日（土）～4月1日（金）
低気圧と高気圧が交互に通過し、平年と同様に天気は数日の周期で変わらうでしょう。

3 か月予報（令和4年2月25日付け 新潟地方気象台）

3月：天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

4月：天気は数日の周期で変わらうでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

5月：天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

注 1) 発生量は平年比。

2) (+) は病害虫の発生に好適な要因、(-) は不適要因、
(±) は好適・不適に関与しない要因を示す。

1 水稻の病害虫

苗いもち

発生時期	育苗期
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 前年の穂いもちの発生は多 (+) (2) 育苗期の気温は平年並か高い (±)
注意事項	(1) 種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。 (2) 種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

もみ枯細菌病(苗腐敗症)

発生時期	育苗期
発生量	並
予報の根拠	(1) 前年の発生は少 (-) (2) 育苗期の気温は平年並か高い (+)
注意事項	(1) 種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。 (2) 種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

褐条病

発生時期	育苗期
発生量	並
予報の根拠	(1) 前年の発生は少 (-) (2) 育苗期の気温は平年並か高い (+)
注意事項	(1) 種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。 (2) 種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

苗立枯細菌病

発生時期	育苗期
発生量	並
予報の根拠	(1) 前年の発生は少 (-) (2) 育苗期の気温は平年並か高い (+)
注意事項	(1) 種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。 (2) 種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

ばか苗病

発生時期	育苗期
発生量	多
予報の根拠	(1) 前年の発生はやや多 (+) (2) 育苗期の気温は平年並か高い (+)
注意事項	(1) 種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。 (2) 種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

苗立枯病（ピシウム菌）

発生時期	育苗期
発生量	並
予報の根拠	(1) 前年の発生は少（－） (2) 育苗期の気温は平年並か高い（＋）
注意事項	(1) 育苗資材や施設の洗浄・消毒を励行する。 (2) 育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

2 麦類の病害虫

オオムギうどんこ病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は認められない（－） (2) 気温は高い（＋）
注意事項	(1) 発生は常発地に限られている。

オオムギ雲形病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 前年の発生は少（－） (2) 現在の発生は未確認（－） (3) 気温は高い（＋）
注意事項	(1) 発生を認めた圃場では、茎立期の防除を徹底する。

オオムギ赤かび病

発生時期	出穂後
発生量	並
予報の根拠	(1) 近年の発生は少（－） (2) 気温は高い（＋） (3) 降水量はほぼ平年並（±）
注意事項	(1) 出穂前後の降雨は発生を助長する。 (2) 出穂期の3～5日後とその7～10日後の2回防除する。

3 果樹の病害虫

かき炭疽病

発生時期	感染期は4月以降
発生量	多
予報の根拠	(1) 前年の発生は多（＋） (2) 気温は高い（＋） (3) 降水量はほぼ平年並（±）
注意事項	(1) 罹病枝は発生源となるので直ちに切り、圃場から除去する。 (2) 休眠期の防除を徹底する。

ハダニ類

発生時期	4月中旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 前年の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+)
注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

4 施設野菜の病害虫

灰色かび病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (-) (3) 降水量はほぼ平年並み (±)
注意事項	(1) 発生初期の防除を徹底する。 (2) ハウス内の換気に努める。

ハダニ類

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+)
注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

アブラムシ類

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+)
注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

5 花きの病害虫

きく白さび病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 前年の発生はやや少 (-) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並み (±)
注意事項	(1) 親株ハウスの換気に努め、防除を徹底する。